

2022年2月24日

国土交通大臣 齊藤鉄夫様
熊本県知事 蒲島郁夫様

代表連絡先（提出団体は末尾掲載）

子守唄の里・五木を育む清流川辺川を守る県民の会

代表 中島 康

〒860-0073 熊本市西区島崎 4-5-13

TEL:090-2505-3880

球磨川水系の河川整備計画策定に関する抗議と申し入れ

2月17日に球磨川水系の河川整備計画策定に関する球磨川水系学識者懇談会が開催されました。整備計画が策定された訳でもないのに、貴省は事前に「ゲート付きダム」という情報を報道機関に提示し、しかも学識者懇談会の委員にも、「ゲート付きダム」の情報を事前に知らせることなく、当日資料として配布するなど、委員に検討する時間も与えず、ダムへの地ならしを進めてきました。このような貴省の最初にダムありきの姿勢に対して、私たちは強く抗議します。

河川法には「河川管理者は、前項に規定する場合において必要があると認めるときは、公聴会の開催等関係住民の意見を反映させるために必要な措置を講じなければならない」という規定があります（第十六条の二第4項）。

貴省は、この規定を無視するかのように住民の意見を全く反映させることなく整備計画策定に向けた動きを進めています。

水害後も生活再建や住宅の問題等で、いまだ悩み苦闘している被災者がいる中、ダムの議論ばかりを先行させることは、被災者を置き去りにしながら、未曾有の豪雨災害という惨事に便乗し、自らの目的を最優先させる非常識極まりない行為と言わざるを得ません。

一昨年7月4日の豪雨災害の被災者に対して7・4球磨川流域豪雨被災者・賛同者の会が行ったアンケート結果では、被災者が求める水害対策として最も多いのが「堆積土砂の撤去」45.1%、次に多いのが「山林・山を保全する」40.7%でした。しかも注目すべきは、「ダム」に関しては「流水型（穴あき）ダム建設」を望むものは8.1%に対し、その3倍近くの21.1%の被災者が、「市房等球磨川流域のダムの撤去」を望んでいるという事実です。

また、今回の豪雨災害で流域に多くの崩落をもたらした山の保全策に関する検証や対策がこの懇談会では全く出てこないことが不可解でなりません。

私たちは国交省・熊本県のこのように進められる「河川整備計画策定」を正当なものとは認めることは出来ません。このような立場から、これまでの進め方に抗議し、被災住民を始めとする流域住民の意見も十分に検証・反映させた河川整備計画を策定させるために、下記申し入れを行います。

記

1. 球磨川水系学識者懇談会の委員も含めて、被災地・山林等の現地視察を行うこと
2. 被災住民を始めとする流域住民の意見を聞く場を設けること
3. 2の住民の意見を聞く場に出た意見を河川整備計画にどのように反映したかを明らかにすること
4. 被災者アンケートの結果に基づき、被災者が求める水害対策を河川整備計画に盛り込むこと
5. 河川整備計画への住民の意見の反映方法は住民と協議し、住民同意の上、決定すること

以上

提出団体一覧

7・4球磨川流域豪雨被災者・賛同者の会 共同代表 鳥飼香代子、市花保
坂本町被災者・支援者の会 本田進
美しい球磨川を守る市民の会 代表 出水晃
子守唄の里・五木を育む清流川辺川を守る県民の会 代表 中島 康